



あぐり情報 Aguri Information

営農指導員
石井 華奈

園芸用培土の種類と特徴について

これからの時期、水稲をはじめ野菜などで苗を育てる育苗の機会が多くなります。

ことわざで『苗代半作(苗半作)』(苗の良し悪しが収穫の半分を決めてしまう・苗を上手に作れば半分できたようなもの)と言われるように、苗を上手に作ることにその後の栽培にとつてとても重要になります。

育苗の際には、その植物に適した培土を選択し、病害などに侵されていない健やかな苗作りが必要です。今回は培土選びのポイントや種類特徴について紹介していきます。

培土のメリット・デメリット

【メリット】
培土をそのまま使える

【ゼオライト】

火山灰が海底に堆積、変性した沸石(ゼオライト)を含む凝灰岩の粉末。

・カルシウム、マグネシウム、カリウム等を含み、保肥力がある。

使用上の注意点

培土によっては、保管場所の条件などによって、性質や成分が変化してしまうものがあります。保管の際には直射日光を避け、開封したものは早めに使い切ることをお勧めします。

また、市販されている安価な培土の中には、完全に堆肥化していないバークや植物に悪影響を及ぼす産業廃棄物、不安定な有機質肥料などが使用されている場合があります。

培土は育苗にとって非常に重要なものです。ぜひ、安全かつ安定した材料を原料としている培土を使用しましょう。

※ご紹介した商品は、パッケージや内容量、成分等が変更になったり、在庫が無い場合があります。ご購入の際は経済センターまでお問い合わせ下さい。 ●松戸経済センター047-341-5151 ●流山経済センター04-7150-2255

【主な園芸培土】

培土名	含有成分(mg)	容量	特徴
合成培土(サンアグロ)	N400・P800・K500	20kg(20L)	千葉県のカ栽培基準に添った肥料成分 透水性、通気性に優れ、出芽揃い良好
平成培土(サンアグロ)	N400・P800・K500	20kg(20L)	半粒状で保水性良好
げんきくん果菜200(片倉CA)	N200・P3000・K150	20kg(26L)	原土・ピートモスと木質炭を配合造粒
げんきくん垂りん酸入りネギ培土800(片倉CA)	N800・P8000・K150	15kg(35L)	原土・ピートモス・木質炭とパーミキュライトを配合 追肥作業の省略
スーパーミックスA(サカタ)	N150~260・P70~160・K190~320	16kg(40L)	黒ピートと白ピートをバランスよく配合、有機酸を含み、 高い保肥力と通気性を持つ
コンパル(スミリン)	N50・P1000・K50	30L	通気性、透水性、保水性が良好、果菜類のポット育苗に向く
イチゴ培土(スミリン)	N50・P1000・K50	30L	通気性が良好で夏場でも加湿になりにくい、プランターの親株、ポットの子株用
たね培土(スミリン)	N150・P1600・K100	40L	低窒素タイプで夏場の高温期及び生育の早い短期のセル育苗に最適
与作ねぎ専用培土N500(ジェイカムアグリ)	N500・P1000・K150	20kg(45L)	パーミキュライト・ピートモス・ヤシガラが主原料 ペーパーポット・セル成型育苗に向き、抜き取りが容易
与作いちご専用(ジェイカムアグリ)	N150・P500・K150	15kg(45L)	パーミキュライト・ピートモス・ヤシガラ・炭等を主原料としており軽量で保水性良い

●育苗中の肥料切れが心配な場合は、下記参照

商品名	成分(%)	量目	特徴
IB化成S1号	N10-P10-K10	20kg	緩効性肥料、粒が大きく(5~10mm)置きやすい。
エコロング413	N14-P11-K13	10kg	用途に応じて効き方を選べる 40、70、100、140、180日タイプ
野菜の達人	N15-P14-K10	15kg	育苗中の液肥施用で使用 500倍で株元に灌水を兼ねて
ポリコープ1号青	N8-P6-K5	2.4kg	葉面散布剤、野菜は約400倍で使用 展着剤入りの為、展着剤は不要



蠍座 10/24~11/22

【全 体 運】好調運。長年の苦勞が報われる出来事の前感です。新しいことを始めるのも吉。お花見に出かけましょう

【健 康 運】筋トレが吉。ハードなスポーツも楽しめます

【幸運の食べ物】サヤエンドウ



天秤座 9/23~10/23

【全 体 運】やる事が多く忙しくなりがち。スケジュールの組み方で効率化を図れます。冷静に状況を整理しましょう

【健 康 運】血行促進を心がけて。お風呂はぬるめで長めに

【幸運の食べ物】グリーンピース

- ・必要な肥料成分が含まれている。
- ・加熱・殺菌されているので、有害な病害虫や雑草の種子が混ざっていない。
- ・土の酸度が調整されている。
- ・揃った健苗が期待できる。
- ・床土をつくる手間がいらぬ。

【デメリット】

- ・培土の購入に経費がかかる。
- ・育苗中の肥培管理が異なる。
- ・培土によって苗質がわからない部分がある。

培土の選択

育苗は、色々な技術が確立しており自分が栽培しやすい方法を選ぶことができます。そのため箱育苗、ポット育苗、セルトレー育苗など、何の作物をどのような育苗方法で栽培するかが培土選びのポイントになります。

一般的に果菜類をポットで育苗する場合、窒素成分で150~200mg前後の培土を用いますが、セルの穴数や穴の大きさ、気温(高温期)によって窒素成分量が少ないものを選択します。ネギなど育苗日数が長い作物は、窒素成分が高い培土(緩効性肥料を含む培養土)を使用したり、後半の生

育を見越してロング肥料を施用したり、苗の状態を見ながら葉面散布を行なうこともあります。葉菜類はセル苗が多いため窒素成分が100mg前後の培土が一般的です。

培土に含まれる主な原料の特徴

【ピートモス】

ミズゴケなどの植物が寒冷な湿地帯で堆積、分解したもの。

- ・保水性、通気性、保肥力が良い。物理性の改良(土が柔らかくなる)
- ・糸状菌、バクテリア、害虫、雑草の発生が少なく。
- ・分解しにくく、効果が持続する。
- ・2次発酵によるガス害などの心配がない。

・肥料効果はなく、強酸性(pH3.5~5.5)のため園芸培土では石灰等で中和されている。

【注意点】

一度乾燥させると水をはじく性質(はっ水性)が現われるので、乾燥させないように注意する。

【パーミキュライト】

雲母系の鉱物を焼成、膨張させたもので、光沢を帯びた非常に軽い鉱物質の資材。

- ・保水性、通気性が良い。水(重量の約6倍)や養分(特にアンモニアやカリ)を吸着保持し、徐々に放出するため育苗期間中の生育促進に効果がある。

【注意点】

保水性は良いが、吸水するまでやや時間がかかる。また、含有量が多すぎると発芽が不揃いになる事がある。

【パーライト】

真珠岩を粉砕、高温で加熱したもので、多孔質構造。

- ・非常に軽量で主にセル育苗用に用いられる。透水性、保水性、通気性に優れる。主に培土の軽量化、水分調整資材として用いられる。

【注意点】

保肥力、肥料効果はない。